

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
乳児保育 II Baby Child Care II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択 (保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小島 寿美代	非常勤 講師室	授業内で指示します。		授業中に指示します
授業の概要				
①乳児保育 I に引き続き、より一層の理解を深める。 ②乳児保育の役割を明確にし、その具現化にむけて何をどう学んでいったらいいか、を考察する。				
授業の目標				
①乳児へのかかわり方の特徴的なことへの理解を深められるようにする。 ②乳幼児の発達の意味を乳幼児の姿を通して理解し、具体的な保育方法にリンクさせられるようにする。 ③乳児保育を通し、周辺への関心を高めると共に、「生活」ということにも目を向けられるようにする。				
授業の方法				
講義・演習を取り入れ、理論と保育の実際の習得を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①乳児へのかかわり方の特徴的なことを理解することで、保育者としての姿をより具体的なものとして捉えることができる。 ②育ちの意味を理解することで、単に保育技術を習得するのではなく、深い考察の下での保育技術の習得となること ③乳児保育の概要が理解でき、現場にむけての心構えを身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 前期をふり返って			
第2回目	[乳児保育の実際1] 保育所での乳児と保育者の姿から一日の流れを知る。			
第3回目	[乳児保育の実際2] 保育所の保育場面からあらためて「保育」を考察する。			
第4回目	乳児をめぐる環境の変化から子育て支援の原点を考える。			
第5回目	乳児をめぐる環境の変化から子育て支援と保育所の役割を考える。			
第6回目	[赤ちゃんの育ちと生活と保育1] 子供にとって遊びとは？			

第7回目	[赤ちゃんの育ちと生活と保育2] 赤ちゃんの遊びとは？ 赤ちゃんの生活の中の諸々のリズムとその調整。		
第8回目	[赤ちゃんの育ちと生活と保育3] 「睡眠」というリズムを知る。		
第9回目	[赤ちゃんの育ちと生活と保育4] 「睡眠」の育ちと夜間排泄自立の関係。「飲む」「食べる」ということのリズム。		
第10回目	赤ちゃんのリズムに合わせるということとコミュニケーションの関係。		
第11回目	[赤ちゃんの具体的な遊びと保育] 運動面の遊び。情緒面の遊び。		
第12回目	沐浴実習。		
第13回目	紙オムツをよく知ろう。		
第14回目	乳児保育の実際をより身近なものとして考える。試験。		
第15回目	授業のふり返りと確認、考察。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	授業で使われる教材の準備ができている。授業に集中し、ノートをきちんととっている。積極的な質問ができる等。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
試験		70%	詳細は事前に説明する。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書：「乳児保育」(南山堂) 授業担当者より適宜指示または資料を配布する。			
履修上の留意点・ルール			
「自分で考えること」を習慣にすること。人の話をよく聞くこと。			